



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3096 号 2016.6.24 発行

発達障害のある子どもへの過剰投薬にノー 被害実態を報告



福祉新聞 2016年06月24日 編集部
抗精神病薬の使われ方について話し合った

過剰投薬にノーを。児童らに対する抗精神病薬の処方の問題になっているが、5月4・5両日、都内で「発達障害「ビジネス」から子どもたちを守ろう」の集いが開かれた。親子連れや都議、区議ら200人以上が参加した。

主催したのは「市民の人権擁護の会日本支部」（東京）。集団行動の不応答などを理由に

「発達障害」とされる子が近年多く、それに伴い子どもへの抗精神病薬処方件数も増えてきた。また、幼児まで飲んだり、適用外処方（健康保険で定めた効能・用法・用量の範囲外で使うこと）も目立つようになった。その被害実態について同支部のスタッフが報告。

さらに、NPO法人「食品と暮らしの安全基金」（埼玉県）のメンバーは、服薬前にできることがあるとして、「ミネラル摂取など食事の改善で症状は落ち着く」と断薬・減薬へつながったケースを紹介した。

肢体不自由・知的障害を伴うコステロ症候群の長男（8）が3歳からほぼ3年間、抗精神病薬リスパダールなどを服用させられた母親（44）も会場を訪れた一人。「薬でかえって奇声を発し、硬直症状が強まり、薬を止めてハンドヒーリングを多用してから軽くなった。親こそ主治医にならないとダメ」と過剰投薬を批判した。

国レベルでは昨年施行10年目を迎えた発達障害者支援法の改正案が5月25日に可決、成立。同支部の米田倫康・代表世話役は「支援の広がりには歓迎だが、早期発見のみが強調され、過剰診断や過剰投薬のリスクは十分議論されていない」と懸念を示している。

障害者施設職員が虐待、入所者重傷...京都・南丹 読売新聞 2016年06月24日

京都府南丹市の社会福祉法人「あけぼの学園」が運営する障害者支援施設「八木寮」で、入所する知的障害者の30歳代の男性が2人の職員から暴行を受け、前歯や足の骨を折る重傷を負っていたことがわかった。府は虐待と認定し、障害者総合支援法に基づいて同学園に改善勧告を出した。

同学園などによると、男性は今年3日、50歳代の男性職員にひげそりの介助を受けていた際、電気カミソリを顔に投げつけられ、前歯1本を折った。昨年9月には20歳代の男性職員に体を押され、転倒して右大腿骨を骨折した。

職員はそれぞれ「男性の言動に腹が立った」「行動を止めようとした」と話しているという。

府は昨年9月の暴行の際、同学園から報告を受け、文書で改善を指導。今年21日には、

より重い改善勧告を出し、3か月以内に再発防止策を提出するよう求めた。

男性の家族は昨年9月の暴行後、府警南丹署に被害届を出し、今年4月、同署が20歳代の男性職員を傷害容疑で書類送検。家族は今月の暴行についても同容疑で被害届を出した。

同学園は50歳代の職員を今月22日付で懲戒免職にし、寮の施設長も減給処分。20歳代の職員についても処分を検討している。

八木寮には知的障害者ら50人が入所している。同学園は、ほかには虐待はなかったとしている。奥村泰之理事長は「障害福祉への信頼を傷つけ、申し訳ない。職員教育を徹底し、再発防止に努めたい」としている。

障害者施設で繰り返し虐待 入所者、歯や骨折る大けが 朝日新聞 2016年6月24日 入所者が大けがをしたあけぼの学園八木寮＝京都府南丹市八木町



京都府南丹市八木町の障害者支援施設「あけぼの学園八木寮」で、知的障害がある30代の男性入所者が職員から繰り返し虐待を受け、前歯や足の骨が折れる大けがをしていたことがわかった。施設を運営する社会福祉法人が23日、ホームページで発表した。府は法人に改善勧告を出し、府警も捜査している。

発表などによると、男性入所者は昨年9月、20代の男性職員に部屋の外に出された際、右太ももを骨折した。府は昨年10月に法人に再発防止を求め、南丹署は今年4月に傷害容疑で職員を書類送検した。

この男性入所者は今月3日にも、50代の男性職員から電気シェーバーを投げつけられ、前歯1本が折れた。このため事態を重く見た府は21日、法人に改善勧告を出し、第三者を交えて再発防止策を作って府に提出するよう要求。南丹署は22日に男性の家族から出された被害届を受理し、改めて捜査を進めている。

施設には約50人が入所し、職員は約30人。法人は50代職員を懲戒免職としている。施設の担当者は「研修などで再発防止を徹底したい」と話した。(横山健彦)

障害者に生演奏届けたい 読売新聞 2016年06月24日 コンサートに向けて準備を進める福本さん(大阪市東住吉区で)

◇全盲音楽家、コンサート企画

◇あす昼、吹田 「声あげたって構わない」

全盲のシンガー・ソングライターで、障害者に音楽を教えている福本淳さん(46)(大阪市東住吉区)が、25日午後3時から吹田市の市文化会館メイシアターで、障害を持つ人も楽しめるチャリティーコンサートを開く。「プロの演奏を聴かせたい」という保護者らの声を聞き、自ら企画した。

福本さんは、先天性の緑内障などによる視覚障害で幼い頃から手術を繰り返した。11歳からピアノを習い、大阪芸大で音楽を学んだ。在学中に完全に失明。卒業後は演奏活動をしながら、障害者に歌や楽器を教えてきた。

活動を通して保護者らから、「プロのコンサートに連れて行きたいけれど、ホールまでの移動や、静かに座っていただけるかが心配」との悩みを聞き、「誰でも気兼ねなく楽しめるコンサートを」と、駅に近い会場で、来場しやすい昼間にコンサートを開くことを決めた。



テーマは「共同作業」。手足が不自由な全盲のブルースミュージシャン・山下純一さん（41）（京都市）や、福本さんの教え子でダウン症のドラマー大音敦さん（29）（吹田市）をゲストに迎える。福本さんが歌唱指導する生活介護事業所の利用者との共演も予定する。バンドのメンバーや音響担当は、プロの演奏家やエンジニアに依頼した。

ホールの内外的サポート体制も整え、福本さんは「興奮して声をあげてもいいし、静かに聞いてほしいとは思っていない。プロの生演奏の醍醐味を楽しんでほしい」と話している。

全席自由席でチケットは当日2500円（前売り2000円）。小学生以下は1000円。売り上げの全額を大阪市内の社会福祉法人の後援会に寄付する。問い合わせはケーエスイインターナショナル（06・6359・5024）へ。

「あいまち」にカフェ開店 石狩 高齢者や障害者、地域住民集う場に ピザやランチ提供、講座開催も 北海道新聞 2016年6月24日
オープンしたあいマルシェで、ピザを手渡すスタッフ。テラス内（左奥）にはピザを焼く石窯を設置した



【石狩】高齢者や障害者、地域住民が交流する「コミュニティカフェあいマルシェ」が23日、いしかり地域交流プラザあいまち（花川南2の3）内にオープンした。昼は飲食店として、石窯焼きのオリジナルピザなどのランチを提供。夕方以降は、イベントや講座などの活動の場として地域に開放する。

あいまちは、元上西外科の建物で、介護福祉事業や建設業の有限会社「アット」（運上昌洋社長）が2013年10月から運営する。高齢者のデイサービスや障害者の多機能型事業所、児童デイサービスなどが入居している。

あいマルシェは、アットが運営する。多目的スペースだった約90平方メートルを改装し、テラス20平方メートルを増設。ピザを焼く石窯を当別町の業者に特注して設置した。将来は、あいまち内の事業所に通う障害者を雇用し、ピザの生地作りや石窯用のまき割りなどをしてもらう。

市内外の企業やNPO法人、専門学校と連携し、手話を学ぶ講座や終活ノートの書き方講座、貧困世帯向けの子ども食堂などを計画している。また、介護保険の対象とならずデイサービスを使えない高齢者のサロンとしても活用してもらいたい考え。

毎週木曜の午後7時から、ヨガ教室の開催が決まっている。先着12人で初回500円で体験可能。

運上社長（41）は「地域の人と高齢者・障害者が交流できる場をどんどん仕掛けていき、地域全体で支え合うまちづくりの一助としたい」と話している。

この日、ランチのため訪れた近くのスナック経営白鳥幸恵さん（57）は「明るい雰囲気、ピザもおいしい。何か参加できそうな時は来てみたいですね」と話していた。

ランチメニューはピザセット（千円）カレーセット（同）など。飲食店の営業は午前11時半～3時で、日曜、月曜休み。問い合わせはあいマルシェ（電）0133・62・8123へ。（成田智加）

障害児アート、前橋・敷島球場のフェンスに きょう西武が主催試合

東京新聞 2016年6月24日

前橋市の上毛新聞敷島球場で二十四日に開催されるプロ野球パ・リーグ公式戦「埼玉西武ライオンズ対千葉ロッテマリーンズ」で、同市立前橋特別支援学校の子どものア

ト作品を基にしたメッセージ看板が球場の内野フェンスに設置される。子どもたちは当日、球場に招待されており、創作活動が多くの人目に触れる喜びを体感し、今後の励みにしてもらおう狙いだ。

市と、四年ぶりに県内で主催試合を行う西武ライオンズ、看板スペースを提供するサッポロホールディングスの協働事業。同球団によると、セ・パ両リーグ合わせても珍しい取り組みという。

メッセージ看板の制作では、知的障害児らが通う同校の小、中学部の全児童生徒計九十五人が、絵の具などで思い思いの絵を描いた。市内在住のデザイナーが色とりどりの作品をまとめ、完成させた。

看板は縦〇・八メートル、横三・五メートル。一、三塁側の内野フェンスの計二カ所に設置する。当日は一部の児童生徒と家族ら計約百人が球場に招待されており、記念撮影や試合観戦を楽しむ。

前売り券は完売したという。同校の市根井雅彦校長は「子どもたちの自由な発想を生かした作品ができた。親子で球場に足を運ぶ機会もあまりなく、良い思い出になる」と喜んでいる。

同球団には前橋工業高出身の渡辺久信シニアディレクターや、前橋育英高出身の高橋光成投手が在籍し、前橋市とゆかりが深い。五月三十日に同市役所で記者会見した西武ライオンズの居郷肇社長は、来季以降も前橋市での公式戦の継続開催に意欲を見せ、「多くの県民にプロ野球の試合を楽しんでもらえれば」と話していた。（川田篤志）



個性豊かな作品群 倉吉、はーとぴあ創造展

日本海新聞 2016年6月24日

かわいらしい手芸作品などが並ぶ会場

鳥取県倉吉市八屋のNPO法人「はーとぴあ創造」の作品展「たなごころのしあわせ」が、同市魚町のくらよしアートミュージアム無心で開かれている。29日まで。

障害者福祉サービスを実施している同法人の支援者や利用者らの作品100点以上が展示されている。フェルトのマスコットやちりめんで作られた干支（えと）の人形、ツバキの花、編み物などの手芸作品のほか、大小の文字を組み合わせた「字手紙」などが、会場いっぱいに並んでいる。

同法人は「いろいろな個性を持った人たちなので、多くの人に作品を見ていただきたい」と話している。

午前10時～午後4時（最終日は正午まで）。入館無料。（加嶋祥代）



発達障害支えて1年 壬生のNPOが記念セミナー

下野新聞 2016年6月24日

【壬生】発達障害のある子どもの家族から相談を受けたり、セミナーの開催で発達障害への理解促進などを図る下稲葉のNPO法人「生涯発達研究所」がこのほど、活動1周年を迎えた。

これまでの主な活動は、毎月10～15回程度の相談対応や乳幼児用の発達チェックシートや発達促進知育玩具の開発、「子どもの

笑顔はお母さんの笑顔から」をスローガンにした「ありのままサロン」を開催してきた。

1周年を記念し5月に町内で開かれたセミナーには95人が参加。7月30日には「認定発達障がいアドバイザー資格研修」を開催し、今後は精神と身体技法両面でのセミナーや講習会をシリーズで実施する予定。

児童虐待相談 最多2205件

読売新聞 2016年06月24日 静岡

県は23日、昨年度に県内7か所の児童相談所（児相）に寄せられた児童虐待の相談件数が過去最多の2205件だったと発表した。県こども家庭課は「関心の高まりや関係機関との連携で、早期の発見につながった」と増加の要因をみている。

昨年度の虐待で最も多かったのは、心理的虐待の1014件（前年度比215件増）。身体的虐待638件、ネグレクト（育児や食事提供の放棄）526件、性的虐待27件と続いた。

親が子どもの目の前で配偶者に暴力を振るう「面前DV」を心理的虐待と捉えるようになったため、近年、心理的虐待が急増した。また、警察の積極的なDV事案への介入と警察と児相の連携強化が進み、全相談の26%にあたる581件が警察などからの相談だった。

虐待を受けた子どもは4割が未就学児で、主な虐待者は、実母が約6割の1278件を占め、核家族化で母親が悩みを抱え、虐待を行ってしまう傾向がみられる。また、実父が3割と、面前DVの増加で、割合が年々増加している。

県は「児相の事務の効率化による相談業務への注力や警察との連携強化で、虐待の早期対応を徹底していきたい」としている。

どうなる生活、社会保障 有権者 改憲にも強い関心 大阪日日新聞 2016年6月24日

22日に参院選が公示され、各候補者は大阪府内各地を駆け回ってそれぞれの政策を訴えている。さまざまな争点がある今選挙、府内の有権者からは、消費税増税や憲法改正の是非を問う声上がる。

候補者の街頭演説に耳を傾ける有権者たち=22日午前、大阪市内（写真は一部加工しています）



安倍晋三首相が、1日に表明した消費税増税の再延期。景気を左右し、生活に直接関わるだけに、今後の動向に多くの人が関心を寄せている。

喫茶店を経営する大阪市浪速区の近藤正孝さん（53）は、外国人観光客で売り上げは順調だとし「せっかく景気が上向いてきた実感を持つようになったのに、消費税増税は勘弁してほしい」とさらなる引き上げ延期を望む。

同市東住吉区のNPO法人代表、徳谷章子さん（60）は「消費税率10%引き上げが先延ばしになったけど、社会保障の子育て支援をどう充実するのだろうか」と疑問を投げかける。「悪口を言い合い、揚げ足を取るばかりで肝心なことを論じてない」ともどかしさを抱えている。

同市浪速区の男性会社員（28）は、以前と比べて暮らし向きは良くなっていると感じつつも「高齢者へばかり、政策を手厚くしている。もっと若い世代にお金が回るようにしてほしい」。

憲法改正や、昨年9月に強行採決された安保法制について注文を付ける人も。

終戦の年に生まれ、太平洋戦争で親戚を亡くした同市北区、無職、西岡潔さん（71）

は、経済対策や社会保障を争点に掲げる安倍首相に対し「憲法改正が最大の争点ではないか」と不満をあらわにする。「うやむやで選挙が終わり、気付けば手遅れということだけは避けないと。安倍首相は堂々と訴えるべきだ」と話す。

岸和田市の主婦、佐藤恭子さん（66）も「戦争を絶対にしてほしくない。このことに尽きる」と切望。安保法制の廃止と改憲阻止を求め「戦争で犠牲になるのは女と子ども。子どもや孫に銃を持たせたくない」と訴える。

このほか、東京都知事が辞職するなど“政治と金”の問題が相次いでいる現状から、八尾市の出版業の男性（46）は「クリーンな政治が必要」と主張。「国民の生活をいかによくするかを考える視点や、日本周辺諸国との摩擦を回避できる大局観を持った政治家」を求め

る。子育てイベントなどを開く団体を主宰する摂津市の新田昌恵さん（33）は「女性の働き方がもっと多様になれば」といい「候補者が何をしたいのか見極めたい」と話す。

また、教育施設常勤スタッフで箕面市の中尾有里さん（28）は、学習指導要領の運用方法などを念頭に「国が統一の基準をつくって順守させるのではなく、地域に判断を任せ、国がサポートする仕組みをつくってほしい」と求めた。

福祉施設のおしゃれ雑貨販売 盛岡、東北から 300 品 岩手日報 2016 年 6 月 24 日



福祉作業施設が作ったバッグや雑貨が並ぶ会場。かわいらしい色使いやデザインで、来場者の目を楽しませている

盛岡市本宮で子ども服店を営む山内まどかさん（37）は23日から7月10日まで、同市盛岡駅前通の盛岡駅ビルフェザン南館地下1階で、東北6県の福祉作業施設で作られた商品の販売会を始めた。おしゃれな雑貨や菓子を厳選して並べ、障害者らの丁寧な仕事ぶりと魅力ある多様な商品を伝えている。

催しのタイトルは「ジャム ウィズ ブリリアント（素晴らしい才能が詰まっている）」。

県内16施設を含む東北38施設の約300商品を集め、ハックの家（田野畑村）は裂き織り製品や地元産牛乳などを使ったパンを出品。宮城県の施設が作った陶製のヘアゴム、山形県のサクランボの種を材料にした枕も人気だ。

今回は会場に東北六魂祭をイメージした段ボール製のねぶたなどを飾り、専修大北上福祉教育専門学校の学生も作業した。山内さんは「福祉商品だからでなく、思わず欲しくなるような良質でしゃれた品がたくさんある。楽しんで買い物してほしい」と呼び掛ける。

南城市、公立保育所存続求める陳情不採択 賛成6、反対12賛成少数

琉球新報 2016 年 6 月 24 日

【南城】南城市議会（大城悟議長）は24日、6月定例会最終本会議を開き、市社会福祉法人立保育園園長会（竹千晶会長）や市民から寄せられた公立保育所の存続を求める陳情4件を審議し、賛成6、反対12の賛成少数で不採択とした。陳情は21日の総務福祉委員会でも不採択となっていた。

議会中継を傍聴した竹会長は「議員は市民の代表のはずだが、陳情採択に反対の議員の発言は市長の代弁にすぎなかった」と肩を落とした。

議会終了後、古謝市長は「（園長会が、公立保育所が担う役割として求める）障がい児保育などを、公立保育所の責任として押し付けるのはよくない」と話した。

中学生が個人情報流出＝教師のパスワード盗み見－愛知 時事通信 2016年6月24日

愛知県西部の市立中学校の生徒約250人分の個人情報やパスワードが5月、インターネット上で一時間閲覧できる状態になっていた問題で、この市の教育委員会は24日、同校2年の生徒が情報を流出させていたと発表した。

市教委によると、2年全生徒の氏名や住所、家庭環境や病歴などの情報がネット上に流出。大手検索サイトがその後削除した。

同校で今月、臨時保護者説明会を開催後、生徒本人と保護者が関与を申告。教師用パソコンに見える形になっていたパスワードを生徒が盗み見をし、教職員限定の情報にアクセスしていた。

公的年金、全保有株を開示 銘柄・株数・時価総額… 運用の信頼性確保

日本経済新聞 2016年6月24日

年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）は保有する全ての株式や債券の時価総額などを個別に開示する検討に入った。これまで資本市場への影響を避けるため、個別の株式や債券への投資額は公表していなかった。開示の強化で透明性を高め、年金運用の信頼性を向上する狙いだ。

GPIFは3つの開示方法を検討			
	全て開示	部分開示	事後的に開示
開示対象	直近3月末時点の全銘柄	時価総額の大きな銘柄のみ直近3月末時点の状況開示	数年前の全保有銘柄
透明性	大	中	小
市場への影響	大	中	小

性を向上する狙いだ。

GPIFは年金資金の出し手である労使を代表する経団連や連合などに複数の開示案を示して調整を進めている。7月に開催予定の社会保障審議会年金部会で正式に提示し、開示方法を決める。7月

29日に公表する15年度の運用成績と併せ、保有する個別資産の状況を初めて明らかにする。

GPIFは3つの開示案を検討している。1つは株や債券、オルタナティブ（代替資産）など保有する資産の16年3月末時点の個別銘柄や時価総額を開示する案だ。最も開示の透明性が高い。2つ目の案は時価総額の大きい銘柄のみ16年3月時点の状況を開示し、その他は数年後に開示する。3つ目は直近の保有状況は明らかにせず、数年前の状況を公表する。



株式の開示項目は銘柄名、株数、時価総額の3点だ。GPIFの投資した時期が明らかになる懸念があるため簿価は公表しない。債券は発行体の名称と時価総額を公表する。

GPIFもマイナス金利で運用が難しくなっている

直近の保有状況を全て開示するようになれば、GPIFの説明責任も重くなる。例えば、長い間赤字が続いているにもかかわらず、他の企業よりも過大に投資している場合などに説明が求められるようになる。これまでは日本株全体にいくら投資しているかは公表しているが、企業別の投資額は分からなかった。

一方、GPIFの開示により流動性の低い銘柄や小型株では思惑を呼び、投機の対象になる恐れがある。一部の企業では政府の影響を懸念する声もある。

海外では全ての投資状況を開示しているケースが多い。世界最大の政府系ファンド、ノルウェー政府年金基金やカナダ年金計画投資理事会（CPPIB）などは全銘柄をホームページで開示している。韓国の国民年金公団は上位10銘柄のみにとどめている。

▼年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF） 国民年金と厚生年金の保険料を一括して運用している。資産額は昨年末時点で約 140 兆円に及び、世界最大の機関投資家ともいわれている。金融市場での運用は前身の年金福祉事業団が 1986 年から始めた。2006 年に独立行政法人の GPIF に衣替えした。

社説：参院選 税制改革 「再分配」を強めよう 朝日新聞 2016 年 6 月 24 日
正社員と非正社員、大企業と中小企業、都市と地方。高齢者と若者、稼ぎや資産の多い人と少ない人……。

様々な格差・不平等の拡大を実感する人は多いだろう。誰もが生き生きと暮らせる社会をめざすには、再分配政策を強め、格差を縮めることが不可欠だ。

その際、社会保障などの予算措置に加え、大きな役割を担うのが税制だ。安倍政権が消費増税を先送りし、年金や介護分野での低所得者対策が後回しになりそうなのに、税制を広く見直して再分配を進める重要性はますます高い。

具体的には所得税と相続税、法人税について「持てるところから取る」という基本方針をしっかりと掲げることが必要だ。

所得税では政府税制調査会が昨年秋、働き方や家族のあり方の多様化、格差の拡大などを踏まえて論点を整理した。女性活躍推進の観点で始めた配偶者控除の見直し作業を進展させ、各種控除の改変を焦点にすえる。

税率の見直しも忘れてはならないだろう。所得税率は 5～45% の累進制だが、株式の配当や売却益への課税は 20% が基本だ。年間所得が 1 億円を超えると実際の税負担率が下がっていく傾向があるが、高所得者ほど株式を多く持っているからだ。

相続税では 15 年から、基礎控除の縮小や最高税率の引き上げなどで課税が強化された。それにより、死亡に伴って相続税が課される比率が 4% 強から 6% 程度に高まると見られる。

不動産相場が高い大都市圏での影響はどうか、政府は分析を深めるとしてさらなる増税には慎重だ。だが、資産の再分配のカギとなるのが相続税だけに、段階的に強化していくべきだ。

そして、法人税である。

安倍政権は、企業の負担を軽くすれば賃上げや投資が進むとして税率の引き下げを急ぐ。

確かに賃上げはある程度実現し、投資も持ち直しの傾向にある。しかし企業が全体として過去最高水準の利益をあげ、多額の現預金をため込んでいる状況からすればまったく力不足だ。企業におカネを使ってもらうには、むしろ課税強化が検討課題になるのではないか。

論点は多いのに、参院選での議論は低調だ。民進党など野党 4 党は「累進所得税、法人課税、資産課税のバランスの回復による公正な税制」という共通政策を掲げたが、自民党の公約は消費増税の延期以外に税制に関する記述がほとんどない。

めざす社会像を知る手がかりの一つが税制である。各党や候補の主張に耳をすまそう。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行